

# 週間天気予報の信頼度を検討(アンサンブル予報の利用)

事例; 2014年5月30日発表の週間天気予報で6月3日~4日の予報をどの程度信頼できるか?

6月1日頃からカットオフされる寒冷渦の移動予測が鍵となる。偏西風の蛇行が大きくなりカットオフされると、系の動きが遅くなり予報の精度が低下する場合が多い(週間天気予報の日替わりの要因)。

図1を見ると、6月3日や4日の予想はGSMとアンサンブル平均の間に大きな位相差はなく、標準偏差も高度場コンターの半分(30m)程度と比較的小さい。また、過去イニシャルの予想を比較すると(図2)、5月25日12Zイニシャル以降の寒冷渦の位相の日替わりは小さい。

以上のことから、寒冷渦の動きに関するアンサンブル予報は信頼して良いだろう。この寒冷渦による具体的な地上天気の流れについては、GSMのいくつかのイニシャルを参照する。

図2

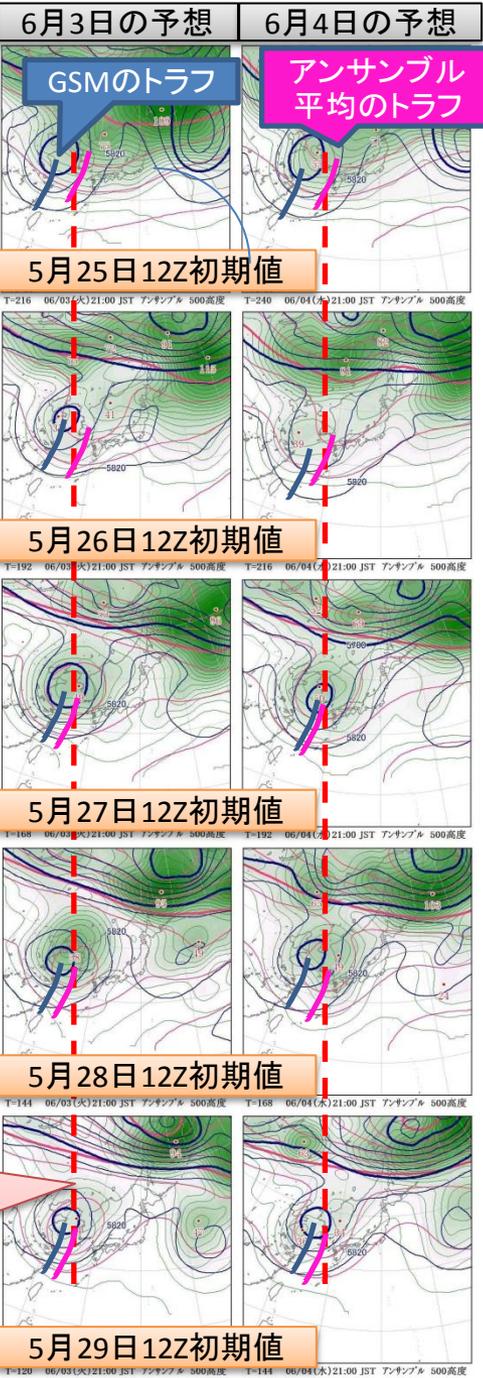
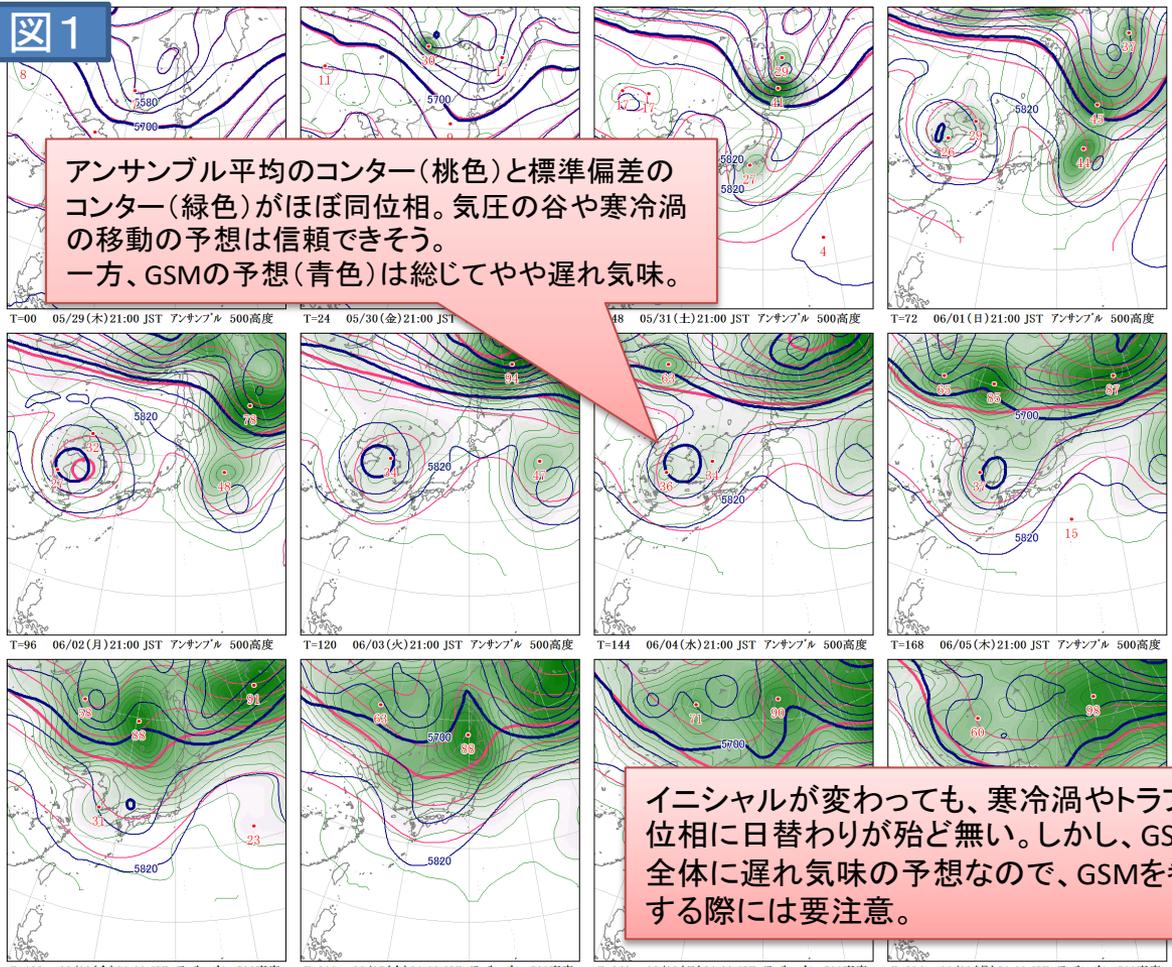


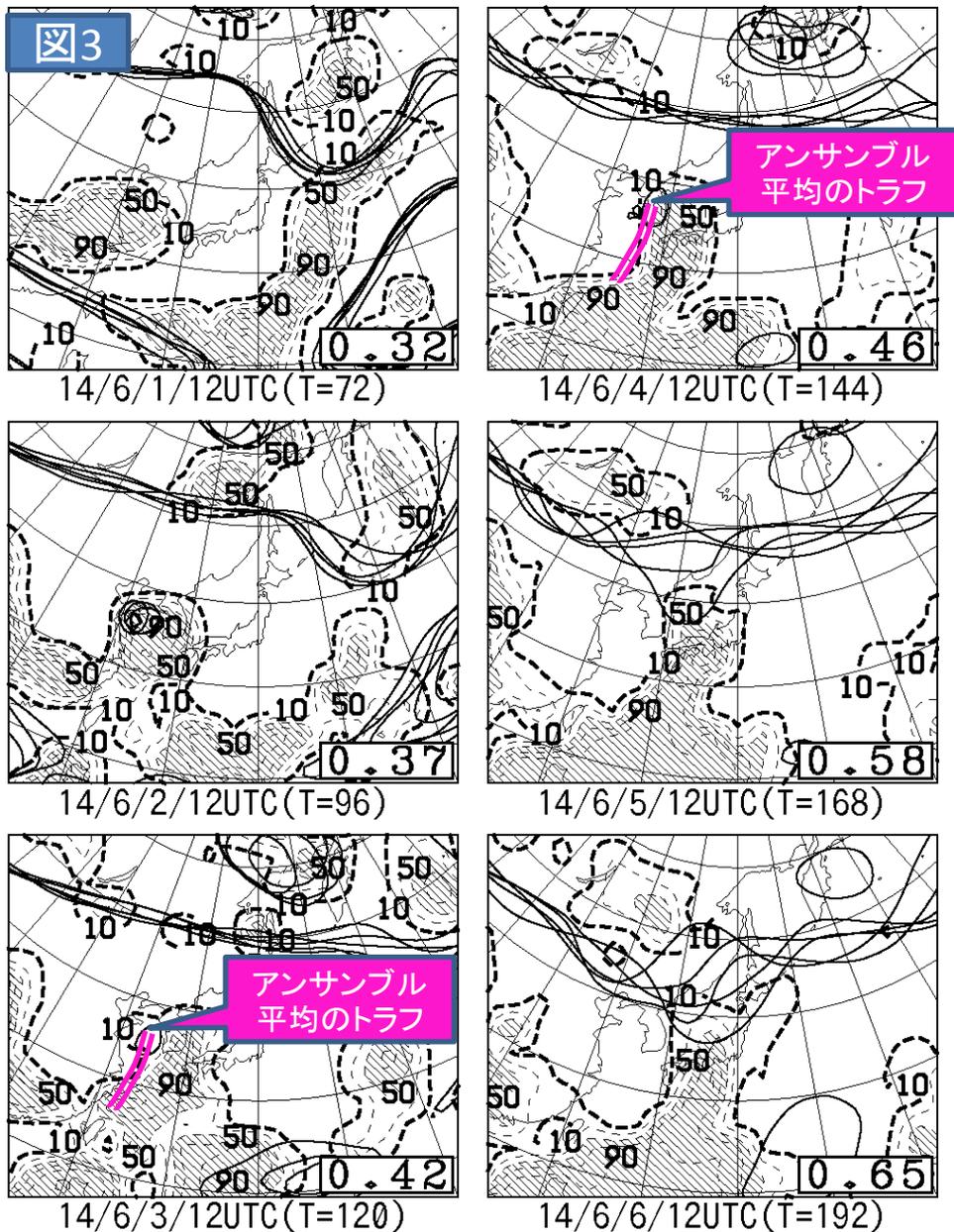
図1



イニシャルが変わっても、寒冷渦やトラフの位相に日替わりが殆ど無い。しかし、GSMは全体に遅れ気味の予想なので、GSMを参照する際には要注意。

週間予報支援図 (アンサンブル) 2014年 5月29日12UTC

500hPa特定高度線, 降水量予想頻度分布(%)及びスプレッド



アンサンブル平均のトラフ前面に、50～90%の高確率で比較的シャープな降水域が予想されていることから、寒冷渦の予想位置にばらつきが少ないことがわかる。

FZCX50(図3)の特定高度線の各クラスター平均により予想のばらつきが大まかに把握できるが、特定高度以外の等高度線が表示されないため、西日本の天気に影響を与える寒冷渦が表現されていない。

そこで、APLAの図1を併用することで、週間天気予報の信頼度を更に詳細に検討することができる。

### 図の見方

図1; APLA縦長メニューのFAX → Fax Viewerの右側メニューのアンサンブル → 8ページの内、P.2とP.6

図3; 同上のP.1とP.5